



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

全労連青年部第28回代表委員会を開催

つづけよう 復興支援！なくそう 原発！

～青年の力で、笑顔で働き安心して暮らせる社会をつくる 2012 青年春闘～



12月3日から4日、都内で全労連青年部第28回代表委員会を開催し、6単産6名、11地方組織11名など45名が出席。学習講演会、班討論と全体討論などを行い、青年運動の発展に向けた12青年春闘方針を確立し、あわせて次期選挙管理委員会、次期役員定数について確認した。また9月に開催した定期大会で空席となっていた役員を選出。全印総連、日本医労連、東海北陸ブロック（愛知）から常任委員を、近畿ブロック（大阪）から副部長を選出することができた。

「つづけよう 復興支援！なくそう 原発！～青年の力で、笑顔で働き安心して暮らせる社会をつくる 2012 青年春闘～」をメインスローガンに、①地球と平和と憲法を守り、住民本位の震災復興・原発ゼロをめざす青年部のとりくみ、②青年が安心して働き暮らせる社会の実現を！、③仲間づくりと、支えあう青年部づくり、④政治の民主的転換をめざす！、の4つの柱で、タテとヨコのつながりを生かした取り組みを進める意思統一をおこなった。

「組合に入ると世界が広がる」

開会に先立って労働総研から村上英吾先生（日本大学）、中澤秀一先生（静岡県立大学）、小澤 薫先生（新潟県立大学）を迎え、「青年層は労働組合をどう見ているか～労働組合の発展へむけて～」と題した学習講演会を行った。

労働総研内のグループが行った学生アンケートから「労働組合に対するイメージ自体は悪くない、否定的な評価は少数」という一方で、「主体的に労働組合に関わろうという姿はみえない」という結果が報告された。若い労働組合員への聞き取り調査では「組合加入のきっかけは周りが入っていたから、加入前は労働組合についての知識は少ない」という人が多かったという。組合に加入してどうだったか、と言う点では「世界が広がる楽しさを知った」という声が多かったと報告され、青年層の組織拡大・強化の芽が確実にあることを改めて実感できた。



対話を基礎に、“青年だからできる” 取り組みを！

代表委員会開会の冒頭、松山青年部長は次のように挨拶し、青年春闘を奮闘しようと呼び掛けた。「大阪のW選挙は奮闘したがおよばなかった。特に若年層が維新の会なら変えてくれるという意識をもって投票した。このまま黙っていても、構造改革路線の政治に逆戻りしかねない。国民が願う政治を実現するためには、声をあげ続けることが必要。

12春闘で強調したい取り組みは、非正規職員の待遇改善をはかること。青年部の活動はここになかなか結びつかないが、繋がりを持つことが重要。そして、生活実感に基づく賃金闘争を確立していくこと。青年だから、正規と非正規の壁を乗り越えられるということもあるし、正規と非正規、公務と民間で賃金体系が違ってても“生活実感”は誰でも変わらない。

すべての課題の基礎になるのは、対話。この春闘で、多くの青年の声を聞ききながら運動を進め、組織強化をはかっていこう。」



全ての地方ブロックから役員選出！

討論では、1日目(3日)分散会を行い、また2日目の全体討論では14組織14人が発言、それぞれの職場や組織の違いや特徴を共有するとともに、単産・地方の壁を越えて団結をして春闘に取り組むことを確認した。また、各組織の先進的な取り組みを深く学べる機会となった。

具体的には、「青年部は少しでも学び、それを単組へ返していくことが最大の任務だ」「人のつながりを広げるとともに原則的なとりくみ、要求を愚

痴としてとらえず夢としてとらえよう」「職場での要求をくみ上げることが重要」など、青年部活動を積極的に進める決意が語られた。

最後に、現在3名が欠員となっている役員体制の補充選挙を行い、副部長に大阪労連から中津川恵子氏(大阪労連青年部事務局長)を、常任委員に愛労連から若見温子氏(愛労連青年協議長)、全印総連から寺沢弘之氏(全印総連青年部長)、日本医労連から山崎世理氏(医労連青年協事務局長)を選出した。



発言の要旨

○埼玉(藤谷)

なかなか賃金が上がらない中で、社会保障(保険料や学費の削減など)が充実し、出費が抑えられれば、賃上げ相当とも考えられる。方針にも位置付けてほしい。TPP参加反対の具体的な行動が全労連から提起されないのはなぜか。

○福岡(大西)

平和大会 in 沖縄に福岡から7名で参加。独自の平和ツアー、夕食交流会で壁新聞をつくって発表。米軍の思いやり予算は私たちの税金でまかなわれている。大企業や富裕層優遇の制度をなくしていくなどすれば消費税増税を行う必要はない。青年層が税金に関心を持つことが重要。まずは自分の給与明細をみて実感してほしいし、消費税廃止各界連絡会の行動にも参加してほしい。

○医労連(新宮)

学習会と代表者委員会を開催。「組合とはなにか」など初歩的なことから学ぶことで新鮮な感想がよせられた。医療のあらゆる職種が交流し、相互理解する良い機会。全国アクトの開催に向けて、

ひとりぼっちの組合をなくそう、震災をどう受け止めるか等議論した。各県青年部の再建や立ち上げの展望もみえてきた。アクトの運動をそのままにしない、が今後のテーマ。



○全教（井村）

「1・2・3プロジェクトパート2」と題した組織拡大の取り組みをしている。労働組合に誘う経験を一度でもすることが大事。①仲間をふやしたいという思いを共有する、②組合の大切さを語る、③誘うための議論をする、④みんなでやろうという雰囲気・意思統一をつくる、この4つが重要。また、勧誘のピラも工夫して作成している。ディセントワークに関わって、部活動をしている教員のアンケートにとりくんでいる。実態を把握し、より良い働き方を実現できるよう対応を図っていききたい。

○大阪（植田）

最賃体験を通じて、最賃では暮らしていけないということが実感できた。生活保護よりも最賃が低いという状況では、働く意欲がなくなってしまう。選挙の結果、地下鉄、保育園など民営化されそうになるなか、民間の賃上げが重要。公務への攻撃にも対抗していく。大阪労連青年部では、語らうこと学ぶことを重視している。自分のことを語れる環境がないと運動は広がらない。

○生協（武部）

富山では最賃が1円上がったがまだまだ低い。ワーキングプアを一緒になくそう、つながろう。生協労連には様々な雇用形態の方が結集している。今ある枠組にとらわれず活動していくことも必要。以前、サマーセミナーに参加してフィールドワー

クが印象に残ったので、生協の交流会で取り入れたら参加者に好評で浸透していった。

○岩手（後藤）

全国青年大集会へ実行委員会をつくって20名が参加した。しかし震災の関係で、ほとんど活動できていない。定期大会は被災地の復興につながるような企画ができればと思っている。活動が停滞気味なので毎年続けられる活動があればと思っている。

○高知（坂本）

交流会、最賃体験などに取り組んできた。9月の大会では役員体制で苦労したが、新しい役員が問題意識をもって正面から向き合うことができた。それぞれの単組のことを学ぶこと、ニュースなどで青年の姿を知ってもらうことを始めた。青年がいないという単組にも訪問して呼びかけなど、こつこつ行っている。来年高知で「働くものの学習交流集会」を開催する。高知のなかから多くの青年参加者をつのり成功させたい。



○愛知（若見）

昨日定期大会を開催した。つながりを広げ、楽しく学び悩みも交流していきたい。サマーセミナーでは、組合を知らない人も多く参加したことが特徴的だった。今回初めて100名を超える120名が参加。また、震災で労働組合がどのような役割を果たしたかを話し合ったり、女性好みの企画を考えた。体験型の学習などを通じて「組合費が何に使われているか参加して分かった」などの感想が寄せられた。参加者が笑顔になって帰ったことが印象的だった。

○国公労連（高橋）

青年協総会で、震災後の公務職場の状況や課題に対する発言が相次ぎ、議論を通じて改めて公務の重要性が実感させられた。また、震災対応で業務量が膨大となっているのでメンタル面のケアが重要となっている。賃下げ法案は民間にも大きく影響する。人事院勧告制度を無視している法案の撤回に力を入れる。全国青年大集会には50名が参加、被災地名産を販売し支援カンパにした。来年6月は青年交流会を開催する。国公の青年が元気になるような集会としたい。地方で青年組織が弱い。国公に結集する必要から問いかけて、再生に向けてとりくんで行きたい。方針に関わって3点ほど（全労連全国集会のまとめは出すのか、被災地支援の具体的な進め方、中央青学連との関わり）確認したい。



○東京（杵島）

国家公務員に労働三権を戻す取り組みと、非常勤職員の拡大を打開する取り組みが求められている。特許庁では先日、正規・非正規が一緒に非正規職員連絡会をつくった。そこを通じて国公一般や全国一般に加入を促すことができればと思っている。最賃の学習会をしたが、当日参加できなかった人にもレジュメをわたして、最賃をあげることが重要だという認識を広げている。

○自治労連（岡崎）

役員のなり手が少ないことが共通した最大の悩み。学習講演会のアンケート結果にもあった、雑務が大変だというイメージは事実であるが、多く集まるところから人材をうまく発掘していくことが必要。沖縄で青年集会を開催し、たくさん集まって成功した。次回（14年）の開催に向けて取り

組みを始める。青年大集会では子育て新システムについて分科会を開き、パレードグッズをつくってアピールした。6月の青年自治研では業務での悩みを組合と結びつけて討論した。公務員の賃金が高いか安いかわからないという意見がでたが、生活給として学習していかないと実感が持てない。県労連に結集できていなかったが、今後、結集に向けて活発にしていきたい。

○愛媛（稲葉）

人数が少ないながらも活動している。今日も権利手帳や青年部ピラを配布する宣伝行動をおこなっている。また、なかまづくりのため、クリスマス会の準備をしている。グループ討論で議論したこともいかしながら、親組合に「次世代育成をどう考えているのか」青年から問いかけていくことも必要と感じている。

○関東（群馬・飯田、長野・八重田）

群馬には青年組織がないが、全国青年大集会をきっかけに、月1回集まりを設けてとりくみをつくっている。関東ブロックで夏に軽井沢で交流会を開催した。来年にも同じような企画をしようと実行委員会を立ち上げ企画を検討している。青年は学習ばかりだとつまらないので、交流や遊びの中から学ぶという意識してやっていきたい。交流・きずなを重点にとりくんでいきたい。要求は夢から出てくる。青年部はないが関東から盛り上げていきたい。

